



子
礼
法
書

76
1228
1



邊
門
1228
卷

明治廿九年
九月十七日
購



かくまざと

凡例

- 一 此書ハ安永天明の頃上本の小冊世小本より其頃の娼家妓院と歌麿と分けて抄録し余未
 小目視し、所の地圖と載きて家名は概略と
 示す
- 一 毎条小教部の冊子を用ひ、ハ盛衰の沿革
 と新しき久しきとてなす高時の品格ハ地圖上
 小細書す
- 一 天保中小齋をらりて、地と集めて上巻とす



- 一 寛政同上廢きしと一 地と下卷より
- 一 卷末より新去原の圖と出して深川等より廊中
よ入る事より一 妓院と記す
- 一 四驛ハ〜〜と郊外ふ〜と且廢地ハ〜と
於祭儀の事〜と一 華の次ハ附録〜と尙
時の形容と述さん〜と
- 一 友人石塚孝奇子ハ華婦と又て自記の秘中を
示さん〜中書中〜と後華と〜とのハ中不ハ是
と〜と〜と

天保十五年正月

引用書提要

後の人真似 明和九年刊書中ハ江戸順礼と以

一 糸あきして江戸遊不三十三不の泥濘の祭句

と巻く本書小江戸順礼と引く

道楽年代記 一 枚括上本年号 遊園易と載き了江

江戸遊不六十七不 色ハ内界の地名及中直と記す

今按 此書後也銀二珠の地小都て六百文は所
と併ハハニ銀いま〜通用と〜時の時
述し思ふ〜南鐘ハ安永二年始て鑄立あり〜
銀を思ふ〜史〜不前明和の末〜安永の初年小
市行と〜書〜人〜江戸順の銀六百文ハ銀七
分五分小大方高且〜と〜一
本書小年代記と引く

婦美車紫麻子 安永三年刻浮世 作書中小九蓮品

定々川一糸ありて江戸遊所六十九布と九

品の洋土小布を以て其直と記して凡俗は是れ

と論と本書小紫麻子と引く

契國策 安永五年刻 卷首小遊所方角品と出して

江戸遊所六十二布 色は内男と十二丈の方位小

記と田園と載す

全盛東花色里名所鑑 安永九年刻 以重州而名津照 江戸遊所

四十八布と名不古述小と云一文中小源流

委与と以て其直と記と本書小名不鑑と引く

甚好記 上木年 春重の小冊水巻尾小江戸遊所

四十布の地名と考けて其直と記す 安永年同

和印行と

辰巳の花 天保八年刻 深川本所の妓院細見小と考

首小五種の全文と出して其直と記し 安永年ハ

更なり歌妓娼婦の名より悉く記す

其他数部ハ引用の布上上様の年号及作者と志

色里三十三折 評判記 遊里花 浮世

三幅對 是ハ数種考芥子増補小係

蠅の糸巻山弘正年作華文鳳堂羅纂卷四十一小
収む後年再投の次小補入也

かくとさく上巻

目録

深川徳園
新地
表槽
古石場
佃
常盤町
辨天
入江町

仲町
表槽
裾継
新石場
佃
細末場
庄旅所
松井町
三笠町

吉田町

堂前

根津

市谷

赤坂

蕨下

吉岡町

谷中

音羽

蕨橋

市兵工町

三田

附識

吉原起立

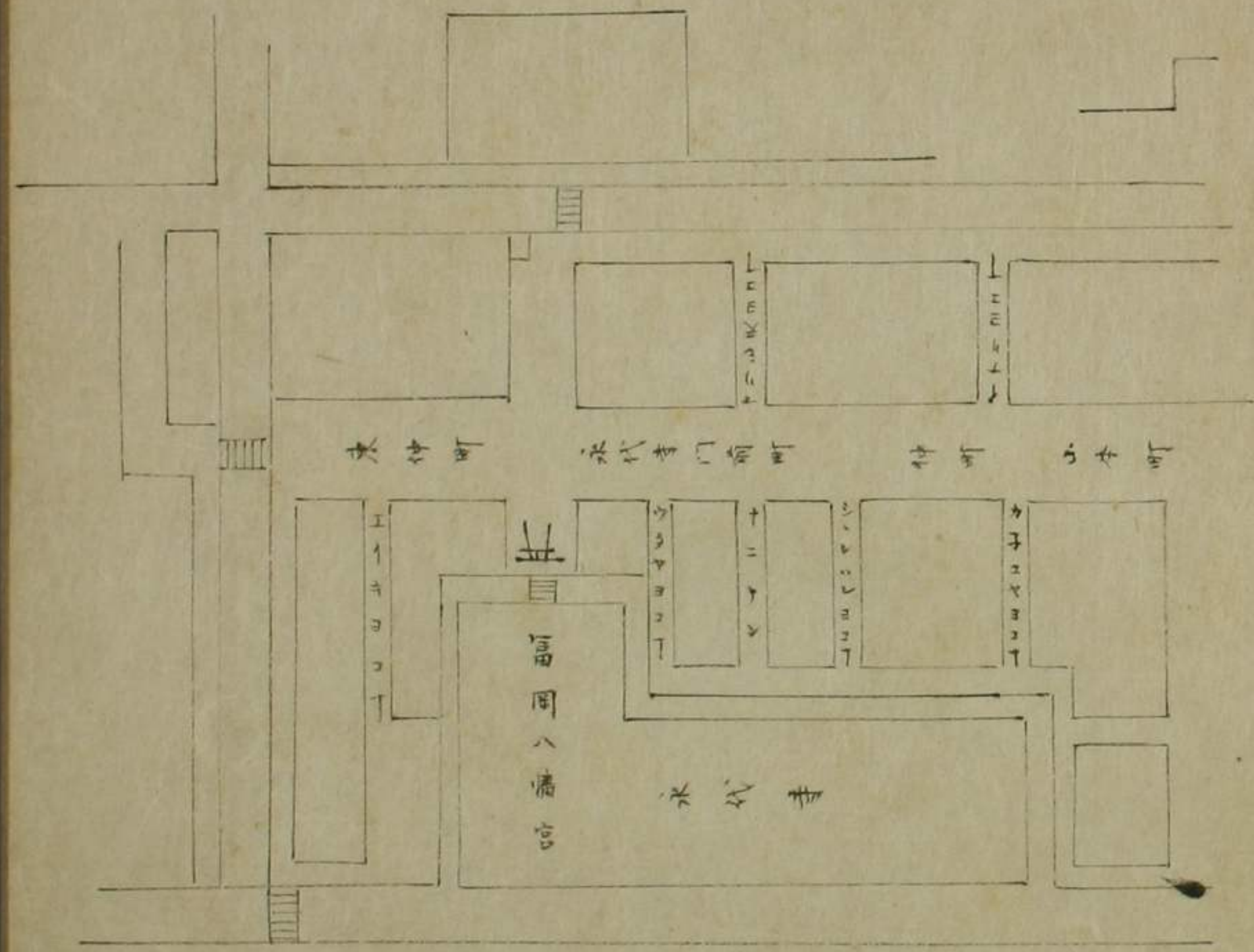
以上

新吉原園并人口

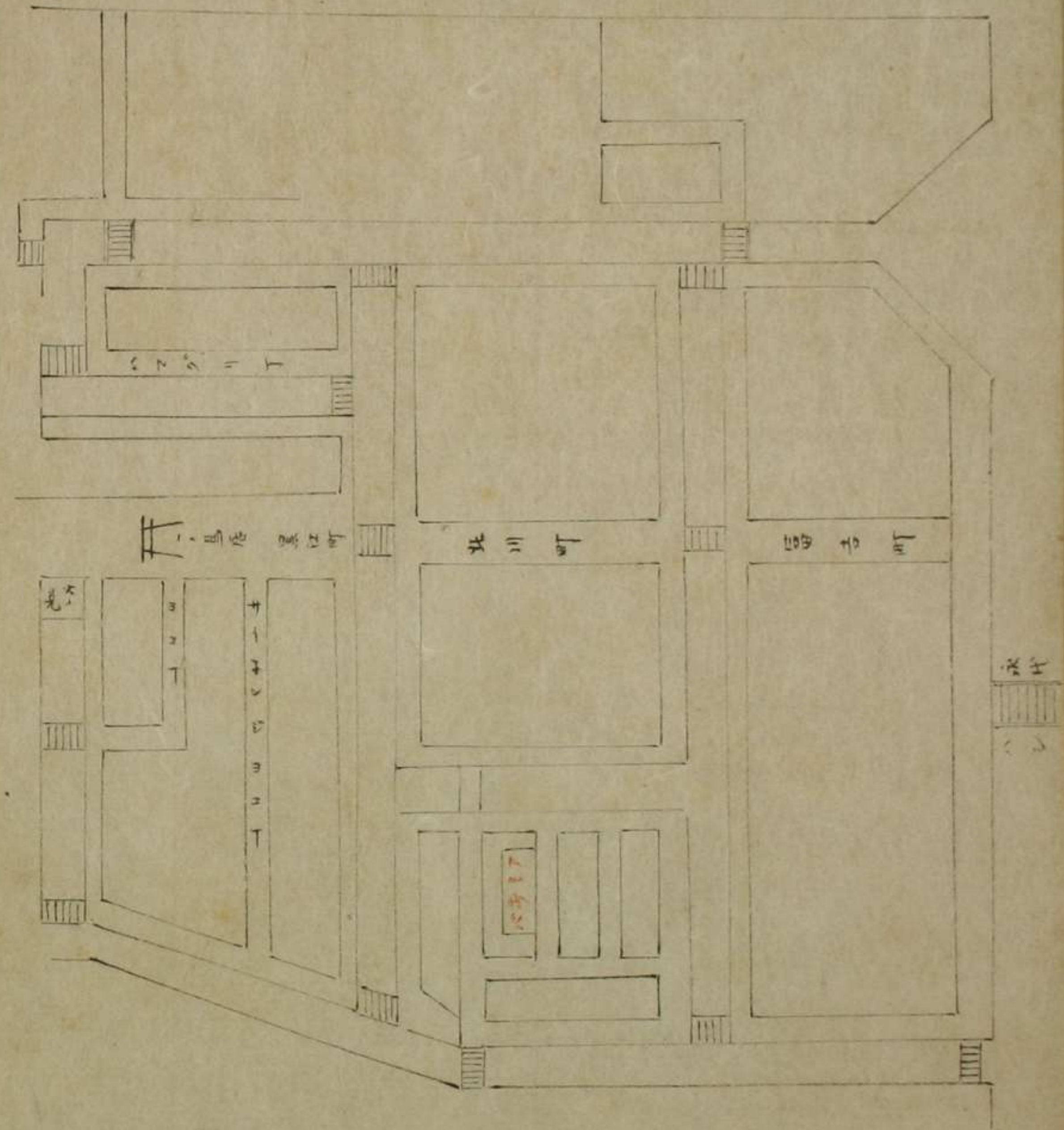
加々丸さ上巻

深川

深川起立書拜領地永代新田 六万三百五十二
 坪 八幡別當永代寺 寛永四卯年拜領 右之
 内川前町家大家九十七軒 馬場通南側二百九
 十六間餘 馬場通元在橋横町八十間 南裏町
 百八十四間半 日西横町八十三間 護持院兼帶
 日所北側百五十六間半 日所北裏永代浦六
 十八間 日北裏百十八間半 深川永代寺門前



源川 遊二 七場 三 個 七場 三内 二アラス 怒 凶



日新仲町日新東仲町日新山本町右者寛永四卯
年葭沼之場新永代寺拜領 某后二己年四月門
前町出来天和二戌年十二月廿八日致焼失表化
所差止之知元録十己年如元成町並延享二丑年
閏十二月成町支取地子金者在寺へ差出也

仲町

深川永代寺門前町より日新仲町へ係り 年代記

仲町 契圖策 新仲町甚好此仲町 紫鹿子

上品上深川仲町切管取十二切一ト此淨土ハ素人ト

うよ下下甚花奢凡流と好と一が今ハ一向小衣
雲髻の凡伊達小成子人切も衣あす能く
一候さきき一幸ハ此而小靴子而形 名所鑑 深
川意の関深き変座知り以十二位前太政大臣色
身卿歌小 凡の仲て一の紋日と深女と一横振
の土橋酒意凡 遊里花 大上と吉 仲町 評判
も能く何不足ない所と吉 古契三娼 上木年号欠
山東系付欠
深川ちやア於と一てやと一ちやち 寄りもて
廊て云り新造と出も一ちやち 寄りもて
々葉居の女よ子壘ちと出一ちやち 寄りもて

も紋所や名と深き、前巻と取りやれ春子共
在り抱小泣きあうけハ小袖ニツづ、小儒伴
と付けて酒も肉もらざりやれ其跡ハ人あて
ん、の君量さきし、傷のほへ子ハ下帯
なんども下夕方より、三尺針ト、いのけ
移へて氣さふまかん、のさ山用ハ
寺在中へ諸人のハ三月廿一日の
と、洋とと、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
廿七日、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
八月の十四日十五日、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
か、善信小出来や、今按ハ四月ハ晴孫の奈と

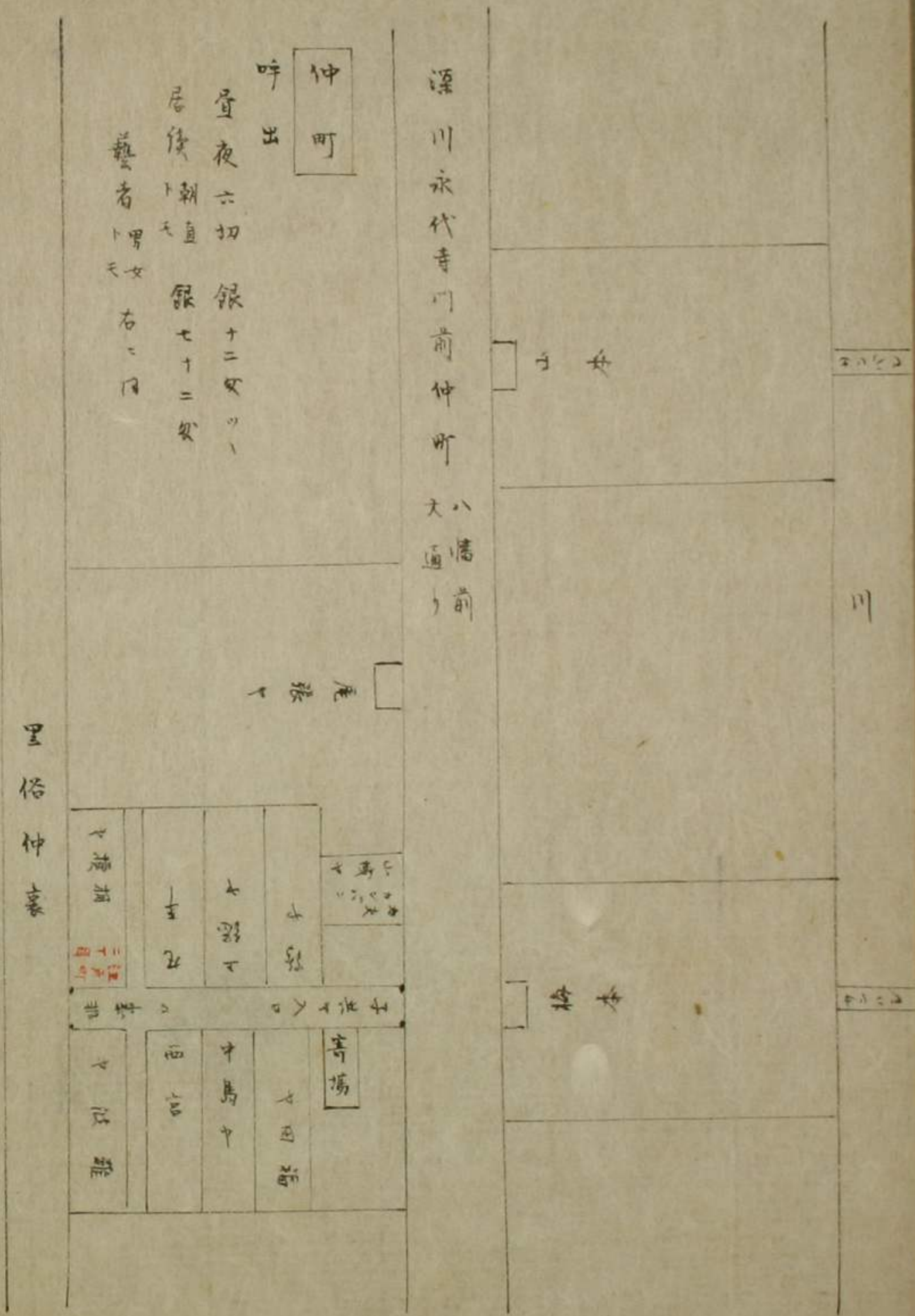
新さ梅本の事、ハあり、ま七と云つて色師さ表
櫓、も地が、さ、今折、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
向さ、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
て廊へ行つて大金、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
や、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
も、三十年、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
同、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
天、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
あつて、今按ハ四月ハ晴孫の奈と
之つ、今按ハ四月ハ晴孫の奈と

江川よりやア男藝者々割合して八幡橋へ渡り徑と
上げやも仲町や土橋の子共ハ山より通湯へ食
物と云ふ事より此の前の子供ハ十二匁の内と茶
居へ六匁よりとて子共居へ臈と云ふことハ離三
百二十四文と云ふとやも對ハ幡の錢ハ茶居の
段で習て番小持小出やも 仕舞文庫 寛政三年刊
作者曰上り
あうけ文庫と云ふは子共の茶居と入りて持
たうけ易し文庫なり大故と云ふと云うけ
しや中人の知しなりむあうけ文庫と云うけ
子より從所小出なり此冊ふの外頭と云ふ
大故の字して八匁居へ三人割茶居丸上座丸の
岩中合と從所ハ教具と茶居より出ても左あま
豆しや從所ハ從所の錢ハ茶居と轉りては以
て取小取具と茶居より出てもなり茶居と從所け

た味啗茶餅と云ふは麻の蒲ふ比翼産麻
の裏表を焼中と押し前畧まうなり
なせは餅へよ取具か悪い餅 此知も茶居の
出た如く悪しき島形漸々んさア女郎が持つて
来し如くいんか板餅なりと云ふは取具包
り餅小餅と云ふは餅と云ふと云ふハ維々麻と云
ふも知しやも中よりちやア男藝者ハいづくた
や一つは口日しやちや男藝者ハ一分者ハ
床より下より下より待つては漸々進の島形漸の
藝者もいづくは取具包なりソリヤ多形漸と
らうともいづくは島形漸へも取具包なり

都々一ツで二ツ小成のきそしてあちやア
 子共羽儀よりりり鳥羽衛ちやアやつむそ女郎
 落去と唱へるよよ 玉の蝶 工本年子久 和歌
 町ハッ近舟 銀七十二分 一切十二分 幸の仕宿
 多く行く む時 としての道と近ひ又ハ喜り取高へ
 唯小や よも 茶屋の女一人行つて来て泊つ
 て居るや そ村 ハ取へ端々物と入る居流し小
 ハ見廻の者とうそ水は但し道途と暑格和歌
 町小湯 今持 け送ねなす封地長櫓小出の如
 日所小夏ハ取へ日傘と入且春ハおらそ取中足袋

永代寺境内



凡々々々安一々の上はハ別けて時花唄と歌

契國策 祀三左王川新北築出 遣里花上 菅地新

馬同支の妻々々々小祈々々々 永年花 色里基

孝祀 五川島馬地 新北之樹 四新ありうろくは

并と場を丈ふ 一々々々小新 駒古丈小刻自

けは嘉七々々々々 問 吾曰白子万山城福岡百

玉の蝶 真地 一々々々 辰己の菴大新北 時料

廿十二女重取七十二女と接は所ハ仲町と遠い

衣入の近なく取四ツ時して取れりてと四ツ明

格取通棧 新居 大栄棧 船子共也 船本 船娘 五人

伊勢本 七人 二見屋 船娘 一人 船山 本 船娘 五人 同

所 但し五三ツ取 二ツ取 二ツ取 二ツ取 二ツ取 中島

屋 棧 船娘 十人 一人 里老曰 け新昔ハハ後

らさう々々々々 過く 船山 小舟 一々々々 四切小

て一ト 物金 一々の 快玉と 舟と 信て 仲町と 舟と

銀十二 舟の 出 一々々々 舟と 信て 仲町と 舟と

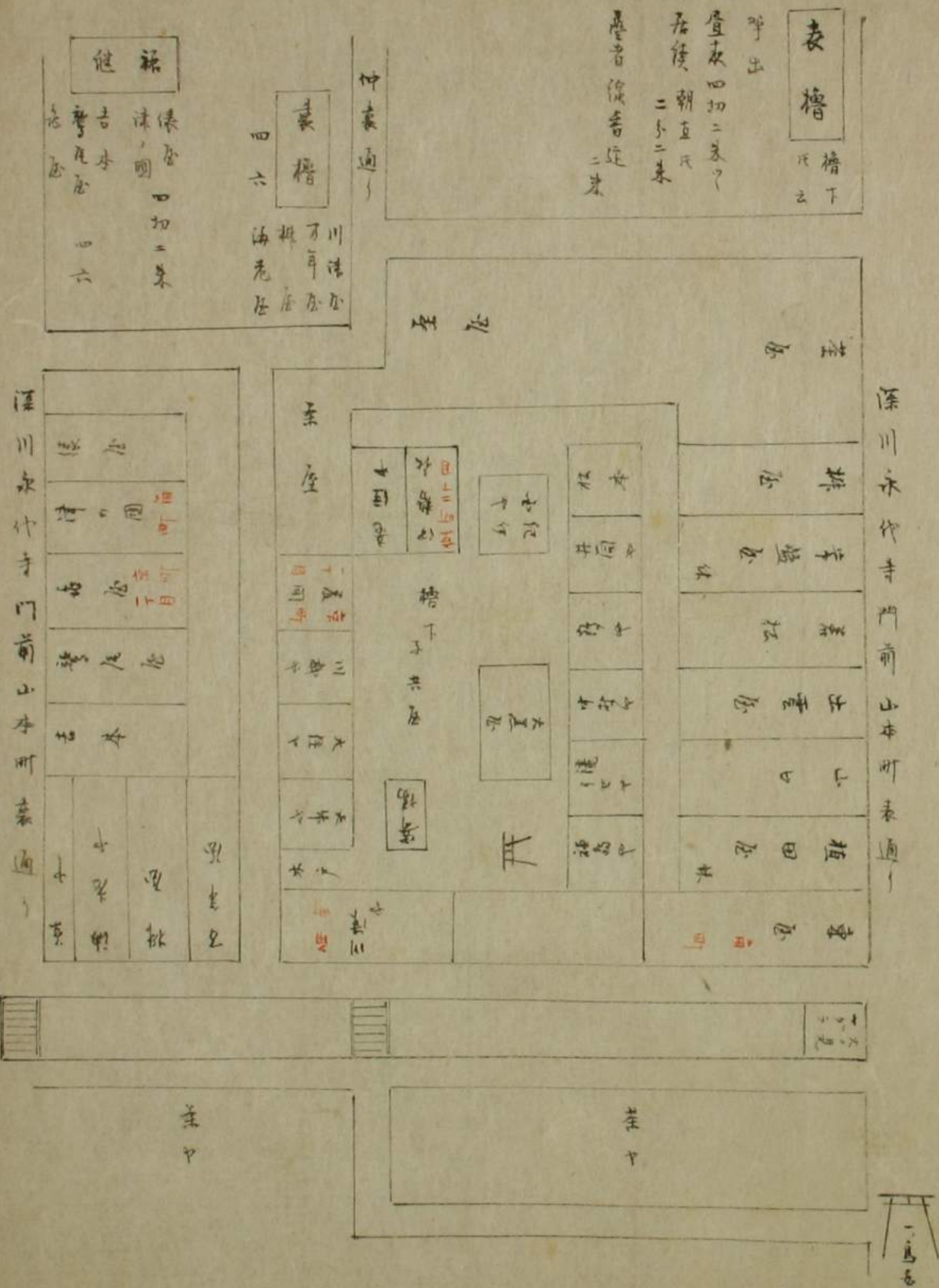
之へ 一々の 品格 舟と 舟と 又は 舟と 舟と 舟と

依玉と 二割あり 小新北と 唱う 四六又也 ハ 舟

てを 比 舟と 出 舟と

表櫓

深川永代寺門前山本町年代記表夫倉下六芒床
 子中品上深川表櫓七分五切以淨土齋の凡衣裳
 若くは一大概ハ仲町と云々係一人りり乃と
 本音曲ささぎハ大概仲町小町形一奥國菜打櫓
 下名所鑑櫓下二条さの小路大佃音歌下
 忘衣倉もろ襦小色さう了素表か〜り〜か〜け
 其好北深川櫓下五分家遊里花上之吉夫倉
 生舖のささぎハ忍ら〜い雷電玉の雫表
 神木一ツニ条
 至任舞金三分
 音泊金二分
 金二分音泊金



深川永代寺門前山本町表通

一馬名

一 辰巳の花 樽下 時刻 二 料 三 程 四 金 二 五 料 六 程 七 自 八 金 二 九 程 一〇 自 一一 金 二 一 二 料 一三 程 一四 自 一五 金 二 一六 料 一七 程 一八 自 一九 金 二 二〇 料 二一 程 二二 自 二三 金 二 二四 料 二五 程 二六 自 二七 金 二 二八 料 二九 程 三〇 自 三一 金 二 三二 料 三三 程 三四 自 三五 金 二 三六 料 三七 程 三八 自 三九 金 二 四〇 料 四一 程 四二 自 四三 金 二 四四 料 四五 程 四六 自 四七 金 二 四八 料 四九 程 五〇 自 五一 金 二 五二 料 五三 程 五四 自 五五 金 二 五六 料 五七 程 五八 自 五九 金 二 六〇 料 六一 程 六二 自 六三 金 二 六四 料 六五 程 六六 自 六七 金 二 六八 料 六九 程 七〇 自 七一 金 二 七二 料 七三 程 七四 自 七五 金 二 七六 料 七七 程 七八 自 七九 金 二 八〇 料 八一 程 八二 自 八三 金 二 八四 料 八五 程 八六 自 八七 金 二 八八 料 八九 程 九〇 自 九一 金 二 九二 料 九三 程 九四 自 九五 金 二 九六 料 九七 程 九八 自 九九 金 二 一〇〇 料

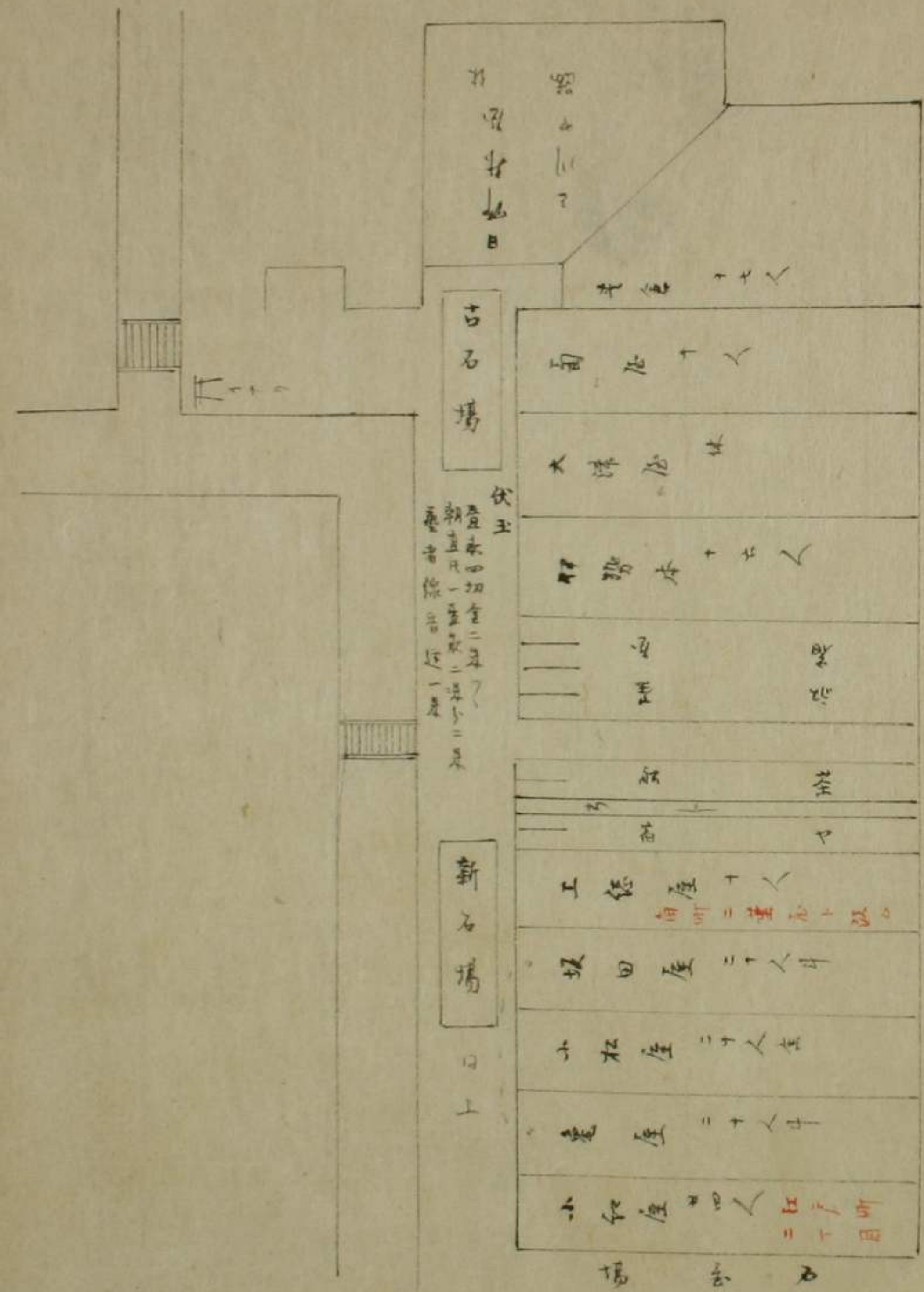
表 樽

源川永代寺 門前山本町 西の方 年代記 表 欠 倉 二 △ 罌

麻子 上中 品 源川 表 樽 七 倉 五 切 此 淨 土 大 抵 表 樽 才
 其外 さ ら ぎ 日 折 玉 の 煤 裏 神 樂 一 倉 五

襦 袢

源川永代寺 門前山本町 北の方 年代記 襦 袢 欠 倉 六 △
 業 庵 子 上中 品 源川 襦 袢 七 倉 五 切 此 淨 土 表 樽 才
 甚 好 比 襦 袢 七 倉 五 切 此 淨 土 表 樽 才
 遊 里 花 上 々
 吉 福 繼 若 人 八 吾 倒 也 得 玉 の 煤 罌 曾 蘇
 次 一 ヲ 二 罌 朝 直 氏 任 任 年 全 三 罌 曾 泊 全 二 罌
 二 罌 曾 泊 全 一 罌 曾 蘇 伏 玉 たり 廻 一 罌 罌



やり着定ハありてと人々
 曾蘇次ぢやアおま
 るゆいよ先つづきのうら地居るる
 ハ島さるる石釣花村らんの新見せまて一
 夜づハ皆上つ辰巳花裾徒
 全ニツ分四ニ是住置一ツツ津の岡
 教婦四十人田原ヤ教婦二十人
 教婦二十人

古石場

深川中島町上段赤井領北
 中品深川石置
 場川取ハ四切此浄土大概ハ新物小おねー衣裳髪

あまの神くまー 契団美 祀石場 名所鑑 石場むと

此所ニ赤くの色石道中より如何なる堅親

又と悪くもく血衛く 甚好祀 石場七段 古契三

娼 能 京付ま石ぢやア今ハ赤翁くもやりやもい

子共く有りもさるもハ依玉さもやも子ハ四

ッ明けよ切ッちやアごさアやもん 仕直文庫 能

大波の振市場とつらめハけ所うへだりよ真々

ついでく振やうささうだ 能くもく切く振や

うき ちくは大智やうやうふハちくく称

百倉とやうハへ 百倉ハアノ赤く塗つた燈籠

め出下振さうささ モシ色の百倉の出見世が

花川よささうやう祈へ去年山の河ふうつて酒

落やうモシもやうやう祈く カウおち以ア

湯川庄の服の小さ水結着りやア何レと川

山田稲高とさしやも け左の境々日記後境

と川よ大波通のく切つて振くあぶ 玉の煙

△ 市場一ツニ集 朝直氏直任半金三分雷泊

ニ果重辰任保金二分雷泊 今按朝直氏金二分

全一分の送なう 場ハ依玉とておとこの証右丁長けとハ四ッ波

ケ切り初倉とよざり新市場ハ初倉ふととと

子々^レの^レ得^レ々^レ一^レ但^レ一^レ均^レを^レ呼^レび^レ出^レす^レ以^レて^レ辰巳の

元 古石場 時々^レ料^レ取^レ金^レ二^レ朱^レ取^レ金^レ二^レ分^レ二

量 倉 婦 十八人 今按^レ世^レ書^レに^レ條^レの

新石場

達近懐宝 深川越中為候拜借地日所刻下水定後

届舗口不續上納地 信村石場 深川起立書 深川

源左工門西谷 右所代官支配地之如延享四年

年所支配所並屋敷相願両支配之如その後在

町の内地代上納地以表代 由免所並小仕及天

以三卯年願を通り小勤年貢々以外百姓字没

日所定後西谷 右天明二寅年中川屋長兵

正本所刻下水五箇度後以善法古勤永く定後右

勤年々可致上納金^音了^音越中為所石置場之内明

地場所と拜借物上願古町日振町並^レ成^レり刻下

水定後届舗^レ町名古唱安古日立己年五月古満

町支配 日不定後西谷上納地 右天明二

寅年和泉屋文花深川定後西谷後残地波^レ了^レ欠

け荒地之知自分入用^レ了^レ家代地^レ小^レ立^レ年^レ致

上の金致拜借波後願満古町の振町並借地之由

り町名ハ天明五己年五月額所方支死古契三
 娼新石場ちやア金ちや、舞ちやうと塵者ハ奴島
 ハ三味線、文蝶唄、五市次三味線、辛八羽織
 丁佐代去梅去さ仕舞文章、うら、大坂の新市を
 ちやのり、うらの坂戸屋のちやへあつちや
 こさるやうい、ちやち結へ、あ、仕舞又也
 小素蓮が出来る、もううら、今小如う、てあ、
 のり玉の蝶新市場一ツニ舞、全ニ分舞直、辰
 己の尻新石場、時とささ、料、舞、全ニ舞、辰、全ニ
 フリ、一、小、紅、屋、娼、婦、七、五、く、小、松、屋、舞、婦、八、く、飛、屋、辰、七

